

校種・教科等	県立学校 養護教諭	受審番号		氏名	
--------	--------------	------	--	----	--

『保健体育科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年11月1日 第3校時(50分)
 (2) 場 所 1年A組教室
 (3) 学年・学級 第1学年A組(30名) 使用教科書 最新高等保健体育(大修館書店)

(4) 単 元 名 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

- ・中学校第2学年の保健体育「薬物乱用と健康」及び薬物乱用防止教室で、薬物乱用による心身の健康への影響や社会的影響について学習している。

【単元のねらい】

- ・喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること、また、薬物乱用は、心身の健康や社会的に深刻な影響を与えることから行ってはならないことを理解できるようにする。
- ・喫煙や飲酒・薬物乱用の対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解できるようにする。

【生徒の状況】

- ・男子12名、女子18名、元気な生徒が多く、グループワークでの学び合いは積極的に発言できる生徒が多い。
- ・エナジードリンクを頻繁に摂取している生徒やダイエットを目的としてサプリメントを摂取している生徒がいる。

(6) 指導計画(全3時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第1次 (1時間)	「喫煙と健康」 ・たばこの煙には、多様な有害物質が含まれており、様々な臓器や運動能力へ影響を及ぼすこと ・受動喫煙により、喫煙の害は個人の健康にとどまらないこと ・喫煙には依存性があり自分の意志ではやめられなくなること ・日本や世界において、様々なたばこ対策が進められていること	一斉 グループ 個別	知識・技能 思考力・判断力・ 表現力等
第2次 (1時間)	「飲酒と健康」 ・アルコールには、脳の働きを抑制する作用があり、短時間で大量のアルコールを摂取した場合には死に至ることもあること ・未成年の飲酒は身体への影響の大きさから法律で禁止されていること ・長期間にわたる過度な飲酒により、依存症になる場合があること ・飲酒の開始には、個人的要因と社会的要因が関わっており、飲酒による様々な問題を防止するためには、これらの要因への対策が必要であること	一斉 グループ 個別	知識・技能 思考力・判断力・ 表現力等
第3次 (1時間) 本時	「薬物乱用と健康」(P32~35) ・乱用される薬物の多くが、直接脳に働きかける性質や依存性を持っており、心身の健康に強い影響を与えること ・薬物乱用は、身近な人たちや社会へ悪影響をもたらすこと ・薬物乱用の開始には、個人的要因と社会的要因が関わっており、乱用を防止するためには、これらの要因への対策が必要であること ・薬物や不確かなものに手を出さないためには、断ることやその場から離れるといった対策が必要であること	一斉 グループ 個別	知識・技能 思考力・判断力・ 表現力等

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。